

第1回 皮膚褥瘡外用薬学会 学術集会 開催概要・プログラム

テーマ	急性期病態における適切な外用療法の選択
会 期	2019年2月10日(日) 8:50-17:40
会 場	星薬科大学 百年記念館 〒145-8501 東京都品川区荏原 2-4-41
大会長	門脇 寛篤 (医療法人弥生会 吾妻さくら病院 薬局)
実行委員	飯田純一、小黒佳代子、門脇寛篤、笹津備尚、関根祐介、野田康弘、古田勝経、 溝神文博
学会参加費 (税込)	学会会員 3,000円 非会員 5,000円
各種認定	日本薬剤師研修センター認定シール 3点、 日本老年薬学会認定 4点
主 催	NPO 法人褥瘡サミット 皮膚褥瘡外用薬学会
後 援	日本病院薬剤師会、日本薬剤師会東京都病院薬剤師会、 神奈川県病院薬剤師会、神奈川県薬剤師会、 日本老年薬学会
学術集会 事務局	医療法人 弥生会 吾妻さくら病院 薬局 門脇 寛篤 〒377-0423 群馬県吾妻郡中之条町大字伊勢町 782-1 番地
運営事務局	東京医科大学病院 薬剤部 関根 祐介 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6-7-1

大会長挨拶

このたび、NPO 法人褥瘡サミット 第 1 回皮膚褥瘡外用薬学会（第 5 回外用療法研究会）の初代大会長を務めさせて頂くことに対し、責任の重大さと学会化となった初回という感慨深い想いを胸に、誠に光栄に思っております。

本学会は元来、「薬剤師に求められる適切な皮膚外用療法を目指して」を目的とし、薬剤師に対して適正な外用療法の教育、啓発活動を行う目的で平成 26 年 8 月に研究会として発足いたしました。しかし、褥瘡治療薬はもとより、外用療法に対する実際の現場においては、薬剤師以外の全職種の皆様方がチーム医療として取り組むことで疾患の治療が進むことから、その知識を多くの医療従事者の皆様と一緒に共有しながら勉学に励もうと、昨年度より薬剤師限定から全職種参加を可能とした形態へ変更し、その後、本開催より学会となりました。そのため、会員規約の変更や NPO 法人との合併初回という面が不十分であったために、先生方に大変な戸惑いやお問い合わせを頂戴したことにつきましては、ここで深く謝罪させていただきます。今後、善処して参る所存でございます。

ところで、本学会のテーマを『急性期病態における適切な外用療法の選択』といたしました。

元来、褥瘡に関して取り扱う場合は慢性期の時期が多く、今まで取り扱ってきたテーマは高齢者や慢性期に対する内容でありました。今回、私が思うこととして、皮膚疾患の始まりは急性期の状態であり、その時の判断を医師、看護師、薬剤師等、看護やケアをすべき医療従事者が取扱いの知識を得ておけば、早期治癒を期待できることから、純粋に急性期の治療における外用療法を学ぶ機会を設けよう、ということになります。それは、小児領域から高齢者領域の疾患まですべてを網羅することとなります。今回、当外用薬学会が外用療法の分野における充実した社会となるための情報交換の場となることを願う次第です。

最後に本外用薬学会の開催に対しご支援を頂きました企業の皆様、ご参加いただいた先生方に御礼申し上げます。今後とも当外用薬学会のご支援と継続的なご参加を重ねてお願い申し上げます。の言葉を礎に慢性期医療に携わってきた私の経験、実感そのものです。

地域包括ケアシステムが推進される昨今、難治性創傷や褥瘡など外用薬などを用いた外用療法においては自施設のみならず、施設間とその多職種間で連携していけるだけの専門性が必要であります。職種間で情報を共有しながらお互いの考えを理解し合い、立場を尊重しながら協働で取り組む力が融合してこそ One team になるためのチーム力の基盤となっていくものと考えます。

特に我々薬剤師は医師や看護師など多職種の中で何を求められ、何をすべきか、どう関わっていけば良いのでしょうか？今回はそのヒントが詰まったスキルアップと明日から実践に生かせるプログラムを企画することができたのではないかと自負しております。

歴史はまだ浅い学会ではありますが、回を重ねるごとに在宅や病院、施設などの臨床現場で活躍する薬剤師も増えつつあります。本学術集会在が今後更なる学会の発展へとつながり、実践力のある仲間が益々増えていく会となることを切に願っております。

第 1 回皮膚褥瘡外用薬学会日程

(第 1 会場)

8:50~9:00

開会式

9:00~10:30

学会設立記念講演

座長 金城学院大学 薬学部

野田康弘

「褥瘡を治せなかった理由が明らかになる」

小林記念病院 褥瘡ケアセンター

古田勝経

10:45~12:15

教育講演

座長 東京医科大学病院 薬剤部

関根祐介

「皮膚外用剤の正しい選び方と使い方」

杏雲堂病院 薬剤科

大谷道輝

12:30~13:15

ランチョンセミナー

座長 チューリップ薬局 平針店

野原葉子

「褥瘡・創傷の病態のとらえ方と薬学的サポートの方法 ~25年間の臨床経験から~」

碧南市民病院 薬剤部

永田 実

13:30~15:00

シンポジウム 「この症例どうする？」

座長 国立長寿医療研究センター

薬剤部

溝神文博

演者

国立病院機構 西新潟中央病院 薬剤部

有泉牧人

東北労災病院 薬剤部

庄司理恵

プラス薬局高崎吉井店

小黒佳代子

善快堂薬局

小野光子

16:00~17:30

特別講演

座長 吾妻さくら病院 薬局

門脇寛篤

「臨床現場での外用薬の使用法 ~急性期における褥瘡から湿疹、アトピー性皮膚炎まで~」

岩手医科大学 皮膚科学

天野博雄

17:30~17:40

閉会式 (Closing Remarks)

(第2会場)

13:30~15:00 ハンズオンセミナー 「外用薬の使い方」

座長 ファーマシーはとり薬局 荒木玲子

「外用薬の特性を理解して褥瘡の外用療法を実践する～古田メソッド～」

座長 小林記念病院 褥瘡ケアセンター 古田勝経

(ポスター会場)

15:00~16:00 ポスター発表

P-01 足趾壊死に対する在宅での外用療法の一例

舩甚 路子、斎藤 奈津子、佐藤 友克

大野あけぼの薬局、協立クリニック

P-02 『進化する』『深化させる』褥瘡回診-薬剤師の『真価』を問う

益成 宏、原田 清美、秋元 夕希、松永 美明、弘中 真紀、柳澤 知子、

佐古 純子、寺尾 隆、竹本 朱美、中野 純二

JCHO 徳山中央病院 薬剤部、看護部、栄養治療部、リハビリテーション部、皮膚科

P-03 精製白糖・ポビドンヨード軟膏に滲出液を吸水させた時の製剤の硬さと流動化傾向の変化

齊藤 美加、野田 康弘、青木 みのり、手嶋 美香子

金城学院大学 薬学部

P-04 褥瘡評価実施加算改定を受けて行った当院の取り組みと現状

小池 真智子、坪井 憲江、福岡 愛実、前嶋 利江、浅野 康彦

並木病院 薬剤部、事務部、内科

P-05 局所療法のみで増悪した褥瘡に対し、複合した悪化因子を取り除き、治癒が促進した一例

八並 ゆかり、加藤 奈美、永田 実、片岡 直美、清政 一二三、入野 洋子、

鈴木 厚志、板倉 由縁

碧南市民病院 薬剤部、看護部、皮膚科

P-06 キシログルカンを用いたメトロニダゾールゲルの調製に関する検討

虎石 竜典、笹津 備尚、板橋 武史、寺本 寛明、楠 欣己、奥山 清、輪千 浩史
東京医科大学八王子医療センター 薬剤部、星薬科大学 組織再生学

P-07 慢性褥瘡モデルの構築

持田 和美、笹津 備尚、関根 祐介、板橋 武史、寺本 寛明、楠 欣己、輪千 浩史
星薬科大学 組織再生学、東京医科大学病院 薬剤部

P-08 外用剤の新規評価 -O/W 型クリーム剤の違い-

吉澤 麗香、笹津 備尚、関根 祐介、板橋 武史、寺本 寛明、楠 欣己、輪千 浩史
星薬科大学 組織再生学、東京医科大学病院 薬剤部

P-09 うつ病患者の皮膚症状を寛解に導き社会復帰へと踏み出せた一例

定岡 摩利、定岡 邦夫 特定医療法人生仁会 須田病院 薬剤部

P-10 褥瘡回診担当薬剤師と病棟薬剤師の連携により適正な治療が行なわれた 1 例

飯塚 雄次、石井 文
帝京大学ちば総合医療センター薬剤部

- P-51 【アンコール】ユーパスタ軟膏により自家感作皮膚炎を起こした1症例
南田 祐子、阿部 みやび、御池 果歩、北 愛美、谷村 朋子
医療法人石鎚会 田辺記念病院 臨床薬剤部
- P-52 【アンコール】ユーパスタ®コーワ軟膏とその後発品との溶解性の比較
長谷川 成高
(有)ケイアンドケイ むらかみ調剤薬局
- P-53 【アンコール】壊死組織の種類におけるスルファジアジン銀の効果について
関根 祐介、土方 愛莉菜、廣瀬 香織、笹津 備尚、下平 智秀、藤瀬 遥、奥山 清、
前 彰、入澤 亮吉、坪井良治
東京医科大学病院 薬剤部、東京医科大学八王子医療センター 薬剤
部、
星薬科大学組織再生学 東京医科大学 皮膚科学講座
- P-54 【アンコール】Furuta Methods を活用した薬剤師介入による褥瘡改善例
小黒 佳代子、采女 愛、馬場 章人
プラス薬局高崎吉井店
- P-55 【アンコール】半固形経腸栄養剤による栄養管理で臀部褥瘡が改善した症例
荒木 玲子、保田 美穂、西脇 千里、坂巻 智牧、平方 明伸、富岡 由里、斎藤 理恵、
比嘉 並誠、大前 由里、小林 光伸
国立病院機構西群馬病院 NST